

# 豊庄だより

福岡市早良区南庄2-26-13

社会福祉法人林生会豊庄保育園

園長 西尾 達

第767号 2023年8月7日

7月19日(水)は多くの子が楽しみにしていた水遊びの開始が予定されていました。しかし、なんと、残念ながら、困ったことに、当日の天気は8時ごろに雷に土砂降り！体操教室の山元先生とも連絡を取ってその日は水遊び無しということに…が、九時ごろには雨も上がり、「曇りではあるものの、できなくはないかなあ」という天気になりました。しかしながら、また降り戻しても困るのでその日はいつも通りの体操教室と相成りました。

というわけで、待ちに待った7月21日(金)！天気は快晴、気温は31度と、酷暑と言うほどでもなく非常に良い水遊び日和でした。まず初めにひまわり組さんが登場しました。みんな水遊びの楽しさを知っているのか待ちきれない様子。保育士の笛が鳴ると水に向かってダッシュ！水に触るとワーキューワーキュー！「冷たい！」「きもちいい！」と声が聞こえてきました。たらいから水をすくって、お互いに水をかけあって楽しそうに遊んでいました！

続いてさくら組さんが登場です。「今から何が始まるんだろう？」と緊張した様子。しかしそんな不安もど吹く風、ピロティに用意された、たらいの周りに集まると、嬉々として水をばちばちやし始める姿が！とても楽しそうでした。中にはやはり初めてだからか、水をじっと見つめて固まっていたり、無言で首を横に振る子もいましたが、保育士が声を掛けると恐る恐る手を伸ばしていました。(勿論初めての水遊びが怖くて泣く子もいました…)



ばら組さんのチームワーク

そして続いて現れたのはばら組さん。ばら組さんは先生の指示を聞いて水をすくったり、水を掛けたりと遊んでいました。そして途中で「手で水を運んでこの入れ物(バケツ)にためてねー！」という遊びをする場面がありました。これに対してなんと、子ども達が手にバケツを持って水を運び始めたのです！しかも自分たちで二人一組を作り、いくつかある水の入ったバケツをそれぞれ持って来ました！賢い！すごいチームワークを発揮していました！予想外のこの行動には私も保育士も度肝を抜かれました。

つづいてすみれ組さんが小型プールで水遊びを始めました。多くの子が水を怖がらず、水をバシャバシャしてはしゃぎ回りました！一通り遊んだ後はプールの水をひっくり返して大波？を体験しました。

そして最後に水遊びに登場したのはゆり組さんでした。ゆり組さんは早く水に触りたくて仕方ないのか、待機場所がどんどんバケツやたらいに寄って行くほどで、積極的に水に触って遊んでいました。仲間に入れてくれようとしたのか、私も最後にはゆり組さんにズボンの色が全部変わってしまうくらい水を掛けてもらいました。

もも組さんはいつものテラスで、保育士に水をかけてもらいながら遊んでいました。安全のためもあるが、もも組全員で同時に遊ぶことはできませんが、待ちきれないのか興味津々なのか、室内の窓に張り付いて食い入るように見っていました。

どのクラスでも子ども達が大はしゃぎで楽しそうにしていた水遊び、先生たちは準備や着替えの手伝いなど非常に大変ですが実施してよかったです。その後も水遊びは実施しており、2回目からは泣いてしまう未満児のお友だちも見られなくなったり、全体的に水遊びの用意などの手際が良くなったりするなど、様々な成長も見られました。今年の水遊びは全日程終わりましたので、来年の水遊びを楽しみに待っていてください！

最近気温が高いこともあって、外での活動の後にシャワーを浴びています。そんな暑い中でも元気に遊んでいるので、夜にはぐっすり眠っているのではないのでしょうか？「今日はどうだった？」と聞いてみてください。

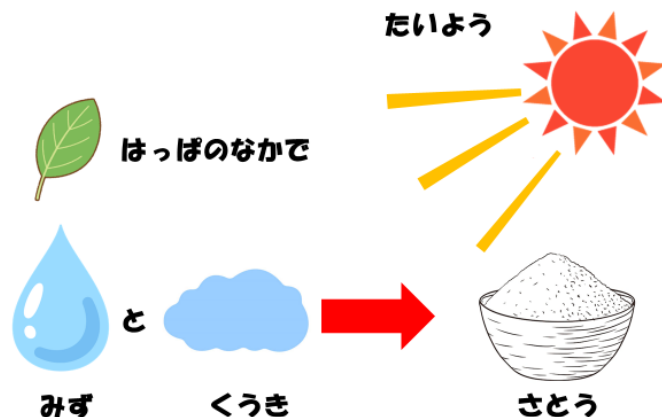


ゆり組さんの楽しい水かけ

7月18日の合同朝の会でトマトの話をしたのですが、資料を貼りだすのを忘れていたのでここでお話いたします。とはいえ内容の半分くらいは私の反省文です。

お話の内容は「トマトをおいしくするには何が必要か？」という話でした。皆に聞いてみると、「つち！」「みず！」という声が聞こえて来たので、良くわかってるなあと思いました。しかし今回話す内容は光合成についてだったので、それに加えて「太陽の光」と「空気」まで必要でした。とはいえ、言われれば空気や太陽の光というのはわかったようで、その後もお話は集中して聞いてくれました。

光合成のおさらいをしておくと、「植物が炭水化物を得るために太陽光のエネルギーを使って、水と二酸化炭素から合成する」というものです。これを子どもたちにもわかるように伝えるために、太陽光→たいよう、二酸化炭素→くうき、炭水化物→おさとうと読み替えました。ちなみに必要なものとしての「土」に関しては、土の中のミネラル分や窒素分が代謝や生長に必要なものなので、おいしくするために直接関係するわけではありません。とはいえ全体の成長具合は食感や大きさに関わりますし、不足すると生育不良の原因となるので必要であるのは事実なのですが。



さて、朝の会の時の話に戻ると、「水と空気からおさとうを作るんだよー」と言うと、驚いた顔をする子と良くわからないという顔の子がいました。これには内心冷や汗でした。やはりまだ早かったかなあと、少し後悔しました。園長が話すときは「それしってるー」「みたことあるー」といった子どもたちの明るい声が聞こえてくるのですが、私の場合はみんなが目を丸くしてしまってレスポンスが無く、旧態の授業みたいな一方向の朝の会になってしまいました。

とはいえ話始めたら結論まで進まないといけないので、そのまま話を続けました。結論は「そのおさとうをトマトにたくわえるからトマトがどんどん甘くなるんだよ」というものです。そして「育てている途中でちぎったらダメなこと」「水やりは大事なんだよ」という二点を言ったのですが、たぶんそこまで理解した子は少なくなってしまったと思います。そうなるような話かたをしてしまったなあと思っています。

そして話の最後に蛇足として、「植物はおさとうから葉っぱや茎に根っこを作っているよ。また、植物を食べる動物や昆虫は植物を葉っぱからおさとうにできるんだよ」という話までしました。ここまでくると、子どもたちには情報過多となってしまった事と思います…最後に今日のお話の振り返りもしていなかったので、なおさら理解度は落ちたかなあと後悔しています。でも「砂糖と食物繊維は同じものからできてるんだよ」という話がいつの日か役に立つかもしれないので伝えておきたいという気持ちもありました(虚栄心かもしれませんが)。

さて話は変わって、園庭で育てているトマトの話をする、朝の会で話したように甘みを蓄える前に、カラスに食べられるという被害が出ています。カラスは、おいしくなり一部だけ熟しはじめたトマトの、その部分だけを食べています。残りはその辺に食べ散らかします。なかなかマナーが悪いです。これまでもすでに3つやられました。

右の写真のトマトは、やられこそしなかったものの、まだ緑色のうちにつつかれてくちばしの跡が残ってしまいました。そのまま大きくなりましたが、このように傷がつくと育たずに腐ってしまうこともあったり、味が悪くなったりします。とはいえ日曜日は人の気配がないのでカラスはやりたい放題です。昨年もカラスに巣が作られそうになるなど悩まされています。かかしでも立てるしかないのでしょうか…



害虫や病気、日照不足にカラスと、十全に育てられているとは言い難いですが、その分、子どもたちがトマトに対して「おいしくなるかな？」「どこまで大きくなるのかな？」「枯れてしまわないかな？」など興味を持ってくれたらいいなと思います。自分たちで育てると苦労が分かり、愛着が沸いて食べたくなるものですし、トマト並びに各種野菜嫌い克服の一助になればと思います。

総括すると今回の朝の会はあまり上手いかなかった朝の会となってしまいました。朝の会のお話の内容を考えたとしても、結局は自分が伸ばしているアンテナやこれまでの知識がもとになってしまいます。自分が好きな話や得意な話は簡単ですが、子どもたちが喜ぶような・役に立つような話をするというのは何ともむずかしいなあと思っています。全員にとって面白い話をするというのは難しい…というかほとんど無理と言っても過言ではないのですが、子どもの場合はまだ趣向が分化していないので共通の面白さを感じるものが多いそうです。そこを掴めればもっと良いお話ができるのかもしれませんが、残念ながらそこまでの熟達は出来ていません。でも子どものころに受けた情報や感情は非常に重要なものなので、もっと話し方や内容の選び方を上達していかなければと思っています。詳しくなり過ぎないように、それでいて子どもたちにとって退屈にならないような話をしていけたらなと思います。